

鉄鋼概況

2011年の国内粗鋼生産 2年ぶりに減少

鉄鋼エコノミスト 左近司 忠政

12月の全粗鋼生産量は前年同月比8.4%減、2011暦年では前年比1.8%減で2年ぶりの前年割れとなる。12月の輸出(全鉄鋼ベース)は前年同月比15.4%減、2011暦年で前年比5%減と2年ぶりの前年比減となった。経済産業省の2012年1~3月期鋼材需要見通しは、粗鋼生産量が前期比2.3%減、普通鋼鋼材の国内需要は0.8%減で、これを織り込んだ2011年度の粗鋼生産量は前年度比4.4%減と2年ぶりの減少である。2011年12月の世界粗鋼生産(64カ国)は前年同月比1.7%増、前月比1.5%増で、2011年の世界粗鋼生産量は前年比6.8%増の15億1,469万トンと2年連続で過去最高を更新した。

~~~~~

### ◆2011年粗鋼生産、2年ぶりに減少

鉄鋼連盟が発表した11月末の普通鋼鋼材国内在庫(メーカー・問屋段階)は、前月末比6万3,000トン、1.1%減の550万7,000トンとなった。2カ月連続の減少となったものの、在庫率は136.2%と前月末に比して3.9ポイント上昇し、依然として高い水準が続いている。一方、11月末の流通在庫は、鉄連が行なった全国市中鋼材流通在庫によると、前月末比1.1%、3万トンの微減で274万8,000トンとなった。11月の販売量は前月とまったく横這いで286万4,000トンとなった。その結果、11月末の在庫率は前月末比1.1ポイント低下の102.4%となり、12カ月連続の100%超えとなっている。

主要鋼材の在庫状況についてみると、11月末の薄板3品(熱延・冷延・表面処理鋼板)の国内在庫(メーカー・問屋・コイルセンターの合計)は、前月末比10万1,000トン減少の424万4,000トンと、2カ月連続の減少となった。タイの洪水影響などを踏まえ高炉メーカーが11月から減産姿勢に入ったことが奏効したものの、在庫率は2.43カ月(前月は2.36カ月)と適正とされる2.0カ月を依然として上回っており、過剰感は強い。メーカーでは「早期に適正レベルへの削減が必要」(新日鉄)としている。主要建材製品であるH形鋼の12月末の全国流通在庫は、新日鉄系建材特約店組織である「ときわ会」のまとめによると、前月末比1,000トン、0.6%増の17万3,500トンでほぼ横這いながら、6カ月ぶりに増加に転じた。在庫率は1.89カ月となり前月末比0.12ポイント上昇した。新日鉄は過剰な水準が続いているとして、引き続き店売り向けH形鋼の販売価格を据え置き、減産を継続する方針である。

鉄連が発表した12月の全国粗鋼生産量は前年同月比8.4%減の839万7,000トンにとどまり、4カ月連続で前年同月実績を下回った。1日当たりの生産量は27万900トン(年率換算9,900万トン)で11月に比して6.6%減となった。2011暦年の国内粗鋼生産量は1億760万トンとなり、前年に比して約200万トン、1.8%減少した。前年割れは2年ぶりとなる。炉別生産量は転炉鋼が同3.5%減の8,274万トン、電炉鋼が同4.2%増の2,485万トンと高炉メーカーが減産した。この結果、電炉鋼比率は23.1%と前年比で1.3ポイント上昇した。2011年には東日本大震災で鉄鋼メーカーの被災に加えて、サプライチェーンの混乱

により製造業向けの需要が一時的に減少した。夏場以降は自動車関連需要の増加などを背景に生産活動は急回復したが、10月以降は円高やタイの洪水の影響を受けて高炉メーカーが減産を実施し、全体の生産量は再び減少に転じた。

財務省が発表した12月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比15.4%減の309万7,000トンとなり10カ月連続の前年割れとなった。前月比では2.4%増と2カ月ぶりに増加したが、タイ洪水の影響が及ぶ前の10月を8%下回った。輸入は同30.2%増の71万9,000トンと8カ月連続で前年を上回った。前月比では5.6%減と2カ月連続で減少した。

国・地域別輸出では、韓国・台湾などアジア NIE's が90万9,000トン（前年同月比28.4%減、前月比6.9%減）、中国が46万2,000トン（26.2%減、8.2%減）、ASEANが84万5,000トン（11.5%減、18.6%増）となった。国・地域別輸入ではアジア NIE's が45万3,700トン（前年同月比8.1%減）、中国が11万4,300トン（同16.5%増）となった。2011暦年では、鉄鋼輸出は前年比5%減の4,085万8,000トンとなり、2年ぶりの前年比減となった。東日本大震災とタイの洪水被害による海外日系需要家の生産活動の低下に加え、70円台の円高傾向の継続が響いた。輸出比率（輸出／生産～粗鋼ベース）は38%と1.2ポイント低下したが、環境の厳しい中では高い水準を維持しえたといえる。

一方、鉄鋼輸入は前年比15.2%増の797万7,000トンと2年連続の増となった。内需に対する輸入比率（輸入／見掛け消費～粗鋼ベース）は約10%と近年最高（2007年は6.2%、2010年は7.5%）となり、為替による日本鉄鋼業への負の影響が顕著に表れた。2011年の国・地域別鉄鋼輸出は、アジア NIE's 向けは1,357万5,000トン（前年比15.8%減）、中国向けは681万7,000トン（同8.2%減）、ASEAN向けは1,121万1,000トン（同0.8%減）、EU向けは50万トン（同12.3%減）といずれも減少したが、米国向けは193万3,000トン（同36.1%増）、中東は146万8,000トン（同4.3%増）、ロシアは29万9,000トン（同8.3%増）と増加した。国・地域別の鉄鋼輸入はアジア NIE's から452万9,300トンと前年比29.0%増と大幅に増加し、中国からは132万6,100トンと同1.4%増となった。

### ◆1～3月期粗鋼2,600万トン——経産省見通し

経済産業省は12月27日に、2012年1～3月期の鋼材需要見通しを発表した。それによると、出荷相当の粗鋼生産量は、前期比2.3%減の2,600万トンとなる。普通鋼鋼材の国内需要は1,277万トンと0.8%減少すると見通している。このうち土木は一次補正予算分の復興需要に加え、民間土木が堅調なため148万と3.0%増となり、建築は冬場の季節的要因から318万トンと7.7%減少する見込みとなっている。製造業は、自動車生産が大震災やタイの洪水の影響からの取り戻しと国内販売のピーク時から高水準を示し、327万トンで5.3%増の見通しとなった。電気機械はボイラー・タービンなどが好調、産業機械は中国経済の減速から建設機械の販売が鈍化し、需要が後退する。

普通鋼鋼材輸出は590万トンで1.7%増と見通している。定修明け製鉄所の輸出が加わるため、円高や海外市場の伸び悩みから実質的には微増に止まる。一方、輸入は145万トンと7%増を見込んでおり、需給バランスへの影響を強めている。メーカー・問屋在庫は、12月末が652万トンと9月末から2%減じると見込んでいるが、依然水準は高く、1～3月期中にさらに30万トン程度減少すると見通している。この生産見通しを織り込んだ2011年度の粗鋼生産量は、前年度比4.4%減の1億592万トンとなる。前年度比マイナスは2年ぶりである。

## ◆2011年世界粗鋼生産、15億トン突破

世界鉄鋼協会（WSA）がまとめた2011年12月の世界粗鋼生産（64カ国）は、前年同月比1.7%増の1億1,705万8,000トンで、27カ月連続して前月水準を上回った。前月比では1.5%増と2カ月ぶりの増加で、中国が7カ月ぶりに増加に転じ、中国以外は2カ月連続で減少した。日産量では64カ国で1.8%減と3カ月連続で減少し、中国は1.2%増と6カ月ぶりに上昇、中国以外は4.1%減と2カ月連続で減少した。日産量でインド、韓国ともにやや後退し、EUも前月比14%減少したのが目立っている。

この結果、2011年の世界粗鋼生産量は前年比6.8%増の15億1,469万トン（2010年は14億1,360万トン）と2年連続で過去最高を更新した。先月号では、年後半の生産量の増加傾向の失速により15億トンの大台に到達するのは困難ではないかと記述したが、64カ国合計は14億9,006万トンと15億トンには達しなかったものの、世界合計では中国の12月の生産量（5,216万トン）の増加などにより、初の15億トン超えを達成した。全体の45%を占める中国は前年比8.9%増の6億8,327万トンと過去最高を更新した。中国以外は同5.1%増の8億3,142万トンとなったが、過去最高だった2007年の実績には及ばなかった。

表-1 世界粗鋼生産

(単位:千トン,%,出所:世界鉄鋼協会)

|         | 11年12月  | 前年同月比   | 前月比     | 2011年     | 前年比     |
|---------|---------|---------|---------|-----------|---------|
| フランス    | 1,108   | (△1.5)  | (△17.6) | 15,777    | ( 2.4)  |
| ドイツ     | 3,025   | (△4.8)  | (△12.3) | 44,288    | ( 1.0)  |
| イタリア    | 1,959   | ( 3.1)  | (△23.7) | 28,662    | ( 11.3) |
| スペイン    | 893     | (△12.5) | (△27.0) | 15,591    | (△4.6)  |
| イギリス    | 669     | ( 1.7)  | (△7.1)  | 9,481     | (△2.3)  |
| EU27カ国計 | 12,541  | (△0.8)  | (△11.6) | 177,431   | ( 2.8)  |
| トルコ     | 3,112   | ( 11.5) | ( 9.2)  | 34,103    | ( 17.0) |
| 他欧州計    | 3,345   | ( 11.6) | ( 8.5)  | 37,181    | ( 16.6) |
| ロシア     | 5,886   | ( 3.1)  | ( 5.7)  | 68,743    | ( 2.7)  |
| ウクライナ   | 2,804   | (△5.3)  | (△4.1)  | 35,332    | ( 5.7)  |
| C I S計  | 9,318   | ( 1.2)  | ( 1.9)  | 112,434   | ( 4.0)  |
| カナダ     | 1,120   | (△0.4)  | ( 5.7)  | 13,090    | ( 0.6)  |
| メキシコ    | 1,550   | ( 13.0) | ( 1.3)  | 18,145    | ( 8.6)  |
| アメリカ    | 7,334   | ( 10.3) | ( 4.3)  | 86,247    | ( 7.1)  |
| 北米計     | 10,134  | ( 9.6)  | ( 4.0)  | 118,927   | ( 6.8)  |
| ブラジル    | 2,688   | ( 10.7) | (△1.9)  | 35,162    | ( 6.8)  |
| 南米計     | 3,795   | ( 10.3) | (△0.5)  | 48,357    | ( 10.2) |
| アフリカ計   | 1,202   | ( 1.9)  | ( 10.2) | 13,966    | (△14.1) |
| 中東計     | 1,718   | ( 3.7)  | ( 4.7)  | 20,325    | ( 7.1)  |
| 中国      | 52,164  | ( 0.7)  | ( 4.6)  | 683,265   | ( 8.9)  |
| インド     | 6,150   | ( 7.1)  | ( 2.5)  | 72,200    | ( 5.7)  |
| 日本      | 8,397   | (△8.4)  | (△3.4)  | 107,595   | (△1.8)  |
| 韓国      | 5,950   | ( 7.2)  | ( 2.9)  | 68,471    | ( 16.8) |
| 台湾      | 1,920   | ( 9.7)  | ( 3.2)  | 22,660    | ( 14.7) |
| アジア計    | 74,581  | ( 0.7)  | ( 3.3)  | 954,190   | ( 8.0)  |
| オセアニア計  | 424     | (△38.2) | (△2.3)  | 7,248     | (△11.1) |
| 64カ国計   | 117,058 | ( 1.4)  | ( 1.5)  | 1,490,060 | ( 6.8)  |
| *中国以外   | 64,893  | ( 2.6)  | (△0.9)  | 806,795   | ( 5.1)  |
| 世界計     | -       | -       | -       | 1,514,685 | ( 6.8)  |

新興国の2011年生産は、インドが7,220万トンと初の7,000万トン台、韓国は6,847万トンと2年連続の過去最高を更新、ブラジルも3,516万トンで過去最高を上回った。トルコは2年連続で最高を更新し、初の3,000万トンに乗せた。ロシアは6,874万トン（前年比2.7%増）と2007年実績を下回り、アフリカも減少に転じるなどバラツキはあるものの、主要国を中心に堅調に伸びた。先進国の2011年の生産はEU27（1億7,743万トン）、北米（1億1,893万トン）が2年連続で増加した一方、日本は2年ぶりに減少した。ピークの2007年比ではEUは15%減、北米で10%減にとどまり、日本を含めて先進国の生産水準は、ピークの90%以下にとどまった。 □